

転居された方は事務局 (svcf-admin@svcf.jp) まで転居先をお知らせください

第125回院内集会～「原発政策の変貌を考える」

北村俊郎さん（元 日本原子力発電株式会社 社長室長）に聞く 報告

福島原発行動隊は 5 月 17 日、北村俊郎さんを講師に迎えて 5 月の院内集会 (第 125 回) をオンライン (Zoom) で開催しました。



北村さんは、かつて原子力発電会社に勤務されて「原子力村の中枢部」におられました。退職後に暮

らしておられた富岡町で 2011 年 3 月 11 日の福島第一原子力発電所事故にみまわれ、「避難生活者」となって現在須賀川市で暮らしていらっしゃいます。

ロシアのウクライナ侵略によって生じた世界的エネルギー危機を背景に、日本政府は東日本大震災、福島第一原子力発電所の過酷事故以来貫いてきた原発再稼働などに対する慎重姿勢を大きく転じ、原子力基本法を改正するなど「原発復権」に向かっています。

北村さんはこうした日本政府の「原発復権」を「時代に逆らうもの」と批判的な評価をされています。

講演内容については福島原発行動隊ホームページ上の講演資料「[原発政策の変貌を考える](#)」をごらんください。資料は右の QR コードからもご覧いただけます。



行動隊からは 10 名が参加し、講演終了後活発な質疑が繰り広げられました。本号では、この質疑を中心に報告します。

※ 北村さんについては、質疑報告の後ろでさら

にご紹介します。

【質疑】

質問: 電力事業の要点は、できるだけ安価な料金で、かつできるだけ停電を起こさず電気を供給することだと思いますが、そのための電源・配電のベストミックスについてどうお考えでしょうか。

回答: 大規模な電源、広範囲の配電網は自然災害、テロ等に対して脆弱です。地方については、電源についてはより小規模なものへ、配電についてはより狭い範囲の配電網へシフトしていく方がよいと思います。大都市ではそうもいかないでしょうし、広域での電力の融通のために、日本が最も得意とし実績もある海底ケーブルによる海底送電系等、別途広域の送電網も必要だと思います。

質問: 将来的に再生可能エネルギーについては太陽光発電が主力になっていくのでしょうか。

回答: 将来的には秋田県沖で稼働が開始された洋上風力発電が主力になっていくと思います。また、洋上風力発電については適地、不適地があるので、先に触れた広域での電力の融通のための海底送電系の整備が必要になると思います。

質問: 経済産業省が、原子力発電から再生可能発電へのシフトしないことが現状の根幹にあると思いますが、どうしたものでしょうか。

回答: 経済産業省の現在の主流は原発依存ですが、中には脱原発を志向する人もいます。

また、[資料](#) 16 ページに示した、日本の再生可能エネルギーは必要電力量の 1.1 倍から 2.6 倍の電力を生み出す可能性を持っているとした「日本の再生可能エネルギーのポテンシャル」は環境省が試算したものです。

ますます高価になる原子力発電への依存による電気料金の高騰、すでに始まっている大企業の大手電力会社の配電網からの離脱といった現実が明らかになっていくことによって、経済産業省の主流の考えも変わっていかざるを得ないと思っています。

質問:電気メーターのスマートメーター化が始まっているのに、配電のデジタル化、オンデマンド化が進んでいないのはなぜでしょうか。

回答:分かりません。電気メーターのスマートメーター化が利用者にとってメリットがないこと(マイナンバーカードと似ています)が最大の要因ではないでしょうか。しかし、オンデマンド化により電力需要に対して発電量が不足する時間帯の電気料金を高くし、逆に発電量が余っている時間帯の電気料金を下げるといった仕組みができれば、このような状況も変わっていくのではないのでしょうか。

質問:原子力発電の将来についてどうすべきとお考えですか。

回答:新增設については避けていかないと日本のエネルギー政策が行き詰ります。既存原発の再稼働については当面容認するしかないのかもしれないですね。

質問:個人レベルでの太陽光発電パネルと蓄電池の導入によるオフグリッド化(大手電力会社の配電網からの離脱)は、資金がなければできないのではないですか。

回答:太陽光発電設備を電力会社が費用負担して設置し、利用者はその費用を一定の期間電気料金から支払っていく賃貸ソーラーとでもいうべきシステムがすでに導入されています。

質問:材料工学を専門としている者ですが、過去に沖縄で導入された風力発電システムが台風で全滅したという事例もあります。風力発電設備の材料的な耐久性に疑問があります。また、蓄電池については現在のところ国内で産出しないレアメタルが必要であり、エネルギー自立に不安が残ります。まず原子力発電をやめることを決断し、その分の人材と金とを再生可能エネルギーシステム、蓄電システムの開発に注ぎ込むべきではないのでしょうか。

回答:洋上風力発電設備にしても蓄電池にしても、近年の技術革新については目覚ましいものがあります。ヨーロッパの北海における洋上風力発電設備の耐風性、耐波浪性の進歩は、日本での導

入の可能性を後押しします。これとは別に、沖縄においては、ベンチャー企業により耐台風性に特化した洋上風力発電設備が導入され、10年近い実績があります。

蓄電池についても、脱レアメタル化は進んでおり、重力、岩石、砂などを利用したローテクな蓄電システムの開発が進められています。



【北村俊郎さん】

1944 年滋賀県生まれ。

1967 年、慶應義塾大学経済学部卒業後、日本原子力発電株式会社に入社。本社と東海発電所、敦賀発電所、福井事務所などの現場を交互に勤めたあと、理事社長室長、直営化推進プロジェクト・チームリーダーなどを歴任。主に労働安全、社員教育、地域対応、人事管理、直営工事などに携われました。原子力発電所の安全管理や人材育成について、現場経験にもとづく数多くの報告を国内やIAEA、ICONEなどで行われています。

2005 年退職。同年から 2012 年まで社団法人日本原子力産業協会参事。退職して福島第一原発から 7 キロ、温暖で暮らしやすい富岡町に居を構えられましたが、2011 年 3 月 11 日、東日本大震災・福島第一原子力発電所事故により突然の避難指示を受け、須賀川市で避難生活を余儀なくされ、現在に至っておられます。

2011 年 11 月、『原発推進者の無念 避難所生活で考え直したこと』(平凡社新書)を刊行。避難所生活を強いられるなかで「原発によって周辺住民がこんな目にあってはならないと、原発を推進してきた者として・・・責任を感じつつ、原子力業界の問題点を明か」にされました。

2021 年 9 月には、「避難してから今まで『事故が何故防げなかったのか』をずっと考えて続けてきた」結果として、『原子力村中枢部での体験から 10 年の葛藤で掴んだ事故原因』(かもがわ出版)を刊行されています。

「民主的決定を装ったパターンリズム、資本主義下での電力独占、・・・対話にならない原発推進派と反対派の不毛な対立、事態を悪化させ解決をより困難にする課題の先送り、・・・危機において

も行われた手ぬるい判断」等に行き着いたと事故原因について記されています。

2023年5月 川内村高田島ヴィンヤード作業日誌（敬称略）

理事 加藤 朗

参加者は安藤、山田、平井、杉山、加藤の5名。

5月23日（火）

12時 いわき駅よりレンタカーで高田島ヴィンヤード着（杉山のみ車で夕方にヴィンヤードに直行）。

13:00、昼食の後、雨のため屋内で、途中休憩をはさみ15:30までワインボトルのラベル貼りを実施。4人の流れ作業で、約1000本のワインにラベルを貼った。



この作業だけでも、人手の少ないワイナリーには大いに役立ったと思う。

5月24日（水）晴。



午前中は、ブドウの樹列に沿って張られたワイヤーから、雨除けのレイン・ガードを開ける作業を実施。一列、長い棚では50mの長さがあり、5人で約80列の棚のC型クリップを外してレイン・カバーを開けた。その後、ブドウのツルがからまるワイヤーを上上げるワイヤー上げ作業を実施。

午後は、おろしたレイン・ガードを、午前中外した指先大のC型クリップで、下のワイヤーに仮止めする作業に従事。簡単な作業だが、結構手間取る。地元の女性の手際の良さにひたすら感心した。

一日中ヴィンヤードの斜面を歩くこと約2万歩、作業は単調だが思いのほか足腰の疲れがひどい。

5月25日（木）

終日草刈り（杉山は午前中のみ参加）。



ブドウの苗木の廻りに生えた雑草を丁寧に刈り取っていく。地面にかがみこみながら中腰で作業をしていたが、しばらくすると腰痛におそわれ、たまらず座り込んで草刈りをした。ブドウの苗木を傷つけないよう慎重に鎌を入れるため、とにかく時間がかかる。また地下深く、まるでクモの巣が絡みつような雑草のひげ根に悪戦苦闘した。まったく雑草の生命力には驚くばかりだ。

16:00に草刈り終了。腰痛でうめき声が出た。

5月26日（金） 帰京。

いろんなことが…

行動の拡がりを求めて

代表理事 安藤 博

まだ見えない成果

2022年10月からこの4月まで、「特定復興再生拠点区域」のある福島県自治体の首長を講師にお招きして「明日のわがふるさと」につきお話しいただくシリーズ講演会を行ってきました。

第一回は葛尾村(2022年10月)。次いで富岡町(12月)、大熊町(2023年1月)、飯舘村(2月)、最後は双葉町(4月)です。

原発事故で被災し全村/町避難までした自治体がどこまで復興できたか、どのような復興計画を持つかを、村長、町長からつぶさにお聞きするとともに、福島原発行動隊がそれぞれの被災自治体の復興作業にどのように協力しているかを話し合いました。

行動隊の行動が、やや少ない地域の限られた事業に固定化している状況を打開するためです。しかしこれまでのところ、具体的な成果はあがっていません。

院内集会の前に、講師をお願いしている町、村の役場を訪れて東日本大震災/原発事故直後2011年4月の行動隊発足時にさかのぼる行動実績等を説明し、新たな行動を求めていることを首長直属の秘書課長等に伝えておく等の準備をしたのですが。

行政の公平性

成果が上がらずにいる理由には、以下のようなことがあります。

一つは、いかめしく言うと「行政の公平性」という“壁”です。面談したある町の役場の筆頭課長が縷々言いました、「例えば町の“山田”さんから求められているご自分の住居、庭の線量測定や除草等を、行動隊の“岸田”さんをお願いしたとします。ところが、同じようなご希望がある“安藤”さんや“杉山”さんが『なぜうちの仕事を頼んでくれないんだ』と文句をいって来られます。行動隊さんのお申し出はたいへんありがたいことです。しかし、行政の側としては公平性を守らねばならず、町民の要望をまんべんなくご紹介するというのは実際問題として難しいのです」。

前から活動している他のボランティア団体との協働作業を勧められたこともあります。しかしこれもまだ具体的な話には至っていません。紹介された団体に対し、前述のような行動隊についての「説明」を念入りに行ないましたが、回答がありません。理由不明のまま、このことも頓挫しています。

いろんなことがあります。「ボランティアに新しく来てもらうための作業スケジュールを組むなんて、ただでさえ忙しいのにとってもできませんよ」と、真っ向う段のお断りをくったこともあります。

見事なお断り

ある町の町長が経営されているバラ園の除草等の整備作業を「できれば手伝ってほしい」と町長からじきじき依頼

を受け、そのバラ園に出向いて行った
ときのことです。自動制御装置のある
大きなビニールハウスで水耕栽培して
いるバラ園でしたが、バラの木のこま
かな手入れから営業まで、実際に現場
を取り仕切っているのは町長のご夫人
です。その方から「主人は現場のことが
まるで分かっていません」と、こちら
の作業協力の申し出をあっさり断ら
れました。

あまりの見事なお断りなので、“タダ
もの”ではないなと思ってお話を伺
っているうちに分かりました。元はれ
っきとした看護師で、東京電力福島第
2原子力発電所で働いていた方でした。
「あの事故のとき、第1原発でふたり
の水死者が出て、わたしがそのご遺体
を第2原発にまで移送したのです」と、
当事の凄惨な状況を剪定鋏みを持った
ご夫人が話されました。

不耕起栽培

「いろんなこと」のなかには、大熊町
の原発事故被災/避難者Kさんが帰還困
難区域内に残した畑の整備に新機軸を
導入されて、これでまでとは一変する
作業に当たるようになったことがあります。
農作業と言えば、そのいちばん
が雑草との苦闘であることは知ってい
ます。「うわべを刈るのではなく、しっ
かり根っこから抜け」と、畑仕事の先
輩から厳しく言われてきました。それ
が「新機軸」は、「抜くな、掘るな」、
もっと言えば「耕すな」なのです。そ
れは米国の農業者ゲイブ・ブラウン（#）
が提唱する「不耕起栽培」農法で、基
本となる考え方は土の構造を壊さず自
然のままに活かすことです。Kさんは、
ゲイブ・ブラウン著の『土を育てる』
（NHK出版）をわたしたちに送って下
さいました。

興味深い「新機軸」ですが、まだ半信
半疑です。今年3月のまだ寒いころに
この農法にしたがって枝豆のほか、ひ
まわりや百日草の種を蒔いていったの
ですが、今回の福島行動の最後に大熊
町に立ち寄って蒔いた種のあとを見た
ところ、全滅でした。雑草が勢いよく
伸びているなかで「あっ、赤い花が」
と見えたのは種の袋でした。

Kさんの言う種蒔きは、雑草を抜きき
れいに耕したところではなく、雑草
は抜かずただ表面を刈り取ってそこ
に残す。それが表土を覆って新たな雑
草が出るのを封ずるというのです。種
は、地面にスジを引きそのスジ目に入
れて押し込んでいくだけです。



ただひとつライ麦は、背丈を超えるほ
どに伸びていました。以前雑草を抜き
十分に耕して畝をたてておいたところ
です。「それ見ろ」といいたいくらい
なのです。

今回は、手鎌で生い茂ってきた雑草を
ばさばさ切ることで大汗せをかきまし
た。「お陰様で、セイタカアワダチソ
ウで覆われていた畑が、マメ科のカラ
スノエンドウが主になりました。土が
肥えてきた証拠と思います。これから

